

令和7年度 かほく市立大海小学校 学校評価中間報告書

経営目標	取組内容	主担当	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	後期の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見
1 確かな学力の育成	ア「主体的に学びを深める工夫」を研究の重点とし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進する授業づくりに努める。	学習指導部	授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員アンケートで80%以上					100% A	校内研究会や週案の取組、4学級の研究授業を通して、職員全員で学校研究を進めることができた。2学期に向けて取組の振り返りを行い、評価改善を行っていく。	タブレット端末の活用についての達成度が低いのは、児童数が少なく、「協働学習」や「意見交流」等の場面での効果が感じにくいからではないか?大海小の実態に合わせて効果的な端末の活用法を考えていってほしい。 →試行錯誤の場面で活用したり、表・グラフの作成などを使って情報を伝えたりするなど、より効果的な場面でタブレットが活用できるよう努めていきたい。
	イ タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。		自分の考えを友達に伝えることができる。	児童アンケートで80%以上	93%				A	一人一人が発言する場がどの学級も確保されている。今後は、児童に自分の考えを最後まではっきり話すことを意識させていく。	
	ウ より主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進		授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケートで80%以上					100% A	本時のねらいを明確にし、導入は短く、タイムマネジメントを意識して授業を進められた。授業作りにおいて、特に児童の発言を予想しておくことを大切にしていく。	
	エ 家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	G I G A 担当	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っていれる。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回以上行っている					60% C	後期は端末の活用を促すために、先生方に「オクリンクプラス」の活用を求める。児童が端末の使用を効果的な場面で選択できるように、教師が意図的に使用する機会をつくる。そのために、どんな活用ができるか紹介する。	
	オ 読書に親しむ習慣化を図る。	学習指導部	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	「自分の決めた学習時間を守つて学習している」児童・保護者アンケートで80%	88%	81%			A	「自分のめあて」「目標時間」を意識する児童が増えた。2学期も家庭学習がんばりカードを活用し学習習慣が身に付くように指導する。また、家庭学習の意義についても適宜児童や保護者に伝え、家庭学習の意識を高めていきたい。	
2 いじめ、不登校や問題構造の未然防止と特別支援教育の充実	ア いじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)を徹底する。	生徒指導部	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上					100% A	いじめにつながりそうなことは機会を逃さず指導し、何がダメなのか、どうしてダメなのかをしっかりと納得できるように考えさせていく。いじめが疑われる場合は、管理職、生徒指導担当などへの『報告・連絡・相談』を確實に行うと共に、事実確認や情報収集を適切に行い、組織的な対応を意識していく。	いじめは、早期発見が大切。チーム大海でがんばって欲しい。何か対策はしているのか。 →ひとりでは判断しない。いじめ問題対策チームで、相談を密にして、対応できるようにしている。 あいさつはとても大切だと思う。グッドマナー・キャンペーンの時に集団登校の様子を見守つたが、やはりあいさつの返事が少ないと感じた。
	イ あいさつを通して他者とのよりよい関わりを持たせる。		児童:「いじめはどんな理由があってもいいと思う」「いじめをしていない」が90%以上		100%				A	いじめに関しては継続して積極的認知していく。また、いじめだけでなく、学習面、生徒指導面、特別活動面など、いろいろな角度から原因を洗い出し、児童が「楽しい」と感じられる機会を増やしていく。各部と連携し、さらに児童主体の取組を充実させていくことで、自己肯定感や自己有用感の向上を目指す。	
	ウ 配慮を要する児童への指導、支援の在り方(SSRの運用等)の共通理解を図る。		保護者:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80%以上		86%				C	いじめアンケートを、今年度は年間で2回持ち帰りで実施する。保護者にも一緒に取り組んでもらうことで、未然防止・早期発見の効果を高めていきたい。	
	エ 豊かな心をはぐくむ道德教育の充実を図る。		学校内で出会った人にあいさつができる。	児童・教職員アンケートの結果が90%以上	95%				92% A	年度当初から低学年のあいさつがとてもよい。よい姿に影響を受け、学校全体のあいさつもよくなってきた。今後さらによい姿が広まっていくようになります。 地域の方へのあいさつは、地域によって差が見られる。高学年が中心となって、誰にでも自分からあいさつができる大海っ子となるよう、指導を継続していく。	
	オ 豊かな心をはぐくむ道德教育の充実を図る。		配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケート「特別支援コーディネーター及び体制を有効に活用している」の結果が90%以上					91% A	配慮を要する児童への指導や支援の仕方について教職員間で情報交換を行い、日々の指導に生かしていく。不登校児童の保護者と面談を行い、今後の方向性をそろそろながら開拓が切れないようしていく。また、特別支援教育や生徒指導に関する校内研修会を計画的に実施するなどして、指導の仕方や支援の在り方について共通理解を図っていく。	
3 生活習慣の定着と運動能力の向上	ア 家庭と連携し、生活習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ご飯、視力低下)	保健安全部	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」が80%以上	98%	100%			A	朝食について保健指導を実施する。食べていい児童には個別指導実施する。 やせ、肥満傾向の児童に関して、保護者や本人と話をし、体格の変化に気をつけながら様子を見る。 メディアの利用の仕方によって、視力低下や生活リズムの乱れにより、学校生活においても集中力低下や体調不良につながることもあるため、ハッピー貯金の取組と合わせて継続的に保健指導を実施。また、よりよい生活習慣の継続・定着のため、保護者との連携を大切にする。	ゲーム・SNSの時間に関することは、保護者の意識次第だと感じる。保護者の向けの講演会を実施して啓発に力を入れていかないと、児童の意識は変わらない。
	イ 「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。		「早寝・早起き・朝ご飯」、または「視力低下防止」を意識して生活できる。	学校独自の「はっぴー貯金」の調査で「テレビ・ゲーム・SNSの時間に関する家のルールが守れた」が5日間のうち4日できただが80%以上	92%				A	どの学年も目標を設定して、朝食を食べている。	
	オ 各学年で、スポーツチャレンジを取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。		教職員アンケートの実施で80%以上						100% A	後期は、各クラスで朝食を食べることや、年1回程度朝食を充実させることを共通理解し、朝食の取組を発信していく。	
4 教職員の働き方改革の推進	ア 各種会議・行事等の取組の工夫、業務の平準化により、組織的運営を推進する。	教務部	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査	【判断基準】 A: 45時間以下 B: 50時間以下 C: 60時間以下 D: 80時間以下		時間外勤務時間 40.3h ※6月	A	日課の見直しや会議等の精選を行ったことにより、ゆとりが生まれ、勤務時間内の教材研究の時間が確保できている。	教職員の働き方が改善しているのは、児童・教員の双方によいことだと思う。	
5 コミュニティスクール事業の推進	ア 地域素材を生かした学習に積極的に取り組む。	学校コ-ディネーター	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている。	教職員アンケートの実施で90%以上					A	教育課程と照らし合わせながら、大海の特色を生かした活動となるよう、計画的に学校コーディネーターと調整を進めていく。さらに体験活動のめあてを明確にし、児童が主体的に活動に臨めるようにする。体験活動でお世話になった方にお礼の手紙を書いたり、体験で学んだことをまとめた成果物を見てもらったりすることで、体験を通じて自己の成長を実感できるようにする。	市のPTA大会の際、大海小のPTAと地域の活動がとてもよいと他の学校から褒めていただいた。豊かな自然環境の中で児童が育っている。今後は、この大海の人や地域のよさを生かした活動を発信していけたらよいと思う。
	イ 「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。		総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。	児童アンケートの実施で80%以上	97%				A	・学校運営協議会で出た意見や評価を基に、よりよい学校になるように、取組を考え実行していく。	
			家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	教職員アンケートで80%以上 委員アンケートの実施で80%以上			96%	100%	A		